

十勝毎日新聞

2005年（平成17年）6月1日（金）



佐山晃司氏

都市エリア
産学官連携

推進委21日発足へ

コーディネーターに佐山氏

国の都市エリア産学官連携促進事業「機能性を重視した十勝産農畜産物の高付加価値化に関する技術」で、事務局となる

財団法人十勝圏振興機構（とち財団）は1日、合研究所所長の佐山晃司氏（69）を委嘱した。同事業では、地域の特性を生かした新技術の開

発・商品化を目指す。常勤コーディネーターの佐山氏は1958年北大農学部卒業。同年、日本甜菜製糖に入社した。主に研究畑を歩み、96年から同社総合研究所の所長を務め、2002年に退職。ビートの副産物のオリゴ糖から機能性食品を開発、市場を開拓し

てきたことなどが評価された。佐山氏は一帯畜大の研究成果を活用して十勝の基幹産業である農業の活性化に「役買いたい」と抱負を述べた。今年度の事業計画は1日、正式に文科省から採択。とち財団ではコーディネーターを中心に、推進委員会を設立。研究

機関の統括は帯広畜産大学畜産科学科の大西正男教授が担う。同推進委内で研究ワーキンググループと事業ワーキンググループを組織、研究成果の技術を移転、知的財産権として活用しながら事業の推進を図る。

（田島工幸）